

CMI 株式会社

横浜市鶴見区東寺尾中台20~3,301
TEL: 045~717~8575 FAX: 045~717~8683

中国 上半期の負極材料市場

2024 年上半期、中国のニードルコークス市場は急速に回復していた。新エネルギー自動車産業の力強い成長は、リチウムイオン電池とリチウムイオン電池用負極材料の増産を推進し、ニードルコークスの需要回復を支えていた。

ICC 資訊によると、2024 年上半期、中国のニードルコークスの生産量が価格とともに上昇した。ニードルコークスの生産量は 38 万 8,100 トンで、前年同期比 1.68%増となった。生コークスの平均価格は 5,275 元/トン（約 10.68 万円/トン、1 元≒20.25 円、以下同）で、同 8.75%上昇した。

また、上半期の電気炉製鋼による鉄鋼の生産量は 5,316 万トンで、前年同期比 29.54%増加した。建設や生産を開始した大型アーク炉プロジェクトが相次いでおり、電炉鋼製品の付加価値も高まっている。2025 年に中国の電気炉製鋼の比率は 15%に達し、2024 年より約 3~4 ポイント上昇すると「第 14 次 5 年計画」（2021~2025 年）で定めた方針は、黒鉛電極やニードルコークス市場により多くのチャンスをもたらす見込みである。

中国工業と情報化部によると、上半期のリチウムイオン電池の生産量は 480 GWh で、前年同期比 20%増となった。リチウム電池用負極材料の生産量は 82 万で、同 16%以上増加した。

過剰生産能力を背景に負極材料業界の競争はますます激しくなっている。生産量が上位とする企業は顧客、生産規模、コストにおける優位性を確立して注文が増えつつあり、フル稼働に近づいている。隆衆資訊によると、上半期の負極材料業界の集中度はさらに向上し、出荷量上位 6 社は 76%の市場シェアを占め、2023 年より 2%上昇した。

上半期、石家荘尚太科技株式会社の負極材料出荷量は 8 万 3,800 トンで、前年同期比 55%増加し、業界全体の伸び率をはるかに上回った。また、寧波杉杉株式会社、湖南中科電気株式会社、深圳市翔豊華科技株式会社などの上位企業も販売量の大幅な増加を実現した。

注文が上位企業に集中する一方、中小企業の一部は減産、操業停止を余儀なくされている。設備稼働率を見ると、上位企業のほとんどは 70%以上だったが、中小企業は 50%以下にとどまっていた。

上半期の負極材料価格は供給過剰のため低下傾向にあった。出荷価格がコストに近づいて、業界全体は利益が薄く、ひいては利益無しになった。6 月末現在、負極材料の人造黒鉛ミドル製品の価格は 27,000 元/トン（約 54.68 万円/トン）で、2024 年初頭より 10%以上低下した。

情報源：ICC 資訊、石墨盟